

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2874400274		
法人名	特定非営利活動法人 ダーナ		
事業所名	認知症高齢者対応型グループホーム アネシス		
所在地	兵庫県豊岡市寿町2-16 (電話)0796-23-0685		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年4月14日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR豊岡駅周辺の商店が立ち並び通りに面した利便性の良い環境にある。ホームは商店を高齢者が生活しやすいよう改修し利用者が生活してきたであろう環境により近い雰囲気作りが出来ている。日々の生活の中でご利用者一人ひとりの状況を把握し、その方の得意・不得意分野、生活歴に応じて、参加し活躍できる場面を提供し、心身の活性化を図っている。
診療所の看護師の訪問を受けながら入院の回避や点滴などの医療処置を受けながらのホームでの生活の継続を図るだけでなく、入院に至った場合は、入院先と情報交換・連携をとりながら早期退院への取り組みを行なっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	現状の自己評価から取り組んでいる 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 外部評価受審について、職員に説明は行ったが、管理者のみで自己評価をした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議の開催に向けて、区長(寿区)に相談を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 来訪時には積極的に意見・要望などを聞く機会を設けている。出された希望・要望は、週1回のカフェインで職員間で情報を共有し改善へ向けて話し合いを行っている。重要事項説明書に事業所の相談苦情窓口と共に、市町村の相談苦情窓口も明記し外部に意見・苦情を表明できることを説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の一員として交流できるように、地域の夏祭り・地藏盆・公民館の竣工式など地域の行事には積極的に参加している。地域の寿栄会(老人会)との交流が持てるように取り組んでいる。

【情報提供票より】(平成20年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	37438		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤4人, 非常勤4人,	常勤換算8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,250 円	その他の経費(月額)	31,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(利用料のヶ月分) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年1月25日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名	
要介護1	2	要介護2	2			
要介護3	2	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	86.2歳	最低	78歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらゆり診療所
---------	---------

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に配布する重要事項説明書の「ホームの目的」には地域との交流がもりこまれてた基本理念が記載されているが、ホームの基本理念としての提示の仕方に明確さが欠ける。		利用者・家族が「ホームの基本理念」を明確に認識できるよう提示し、具体的に理解できるように説明することが望まれる。また、基本理念には「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という内容が盛り込まれることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時のオリエンテーションでホームの基本理念を説明し、職員が共通認識できるようにしている。また、ミーティングなど話し合いの場で、理念に立ち戻り、振り返りを行う機会を持っている。		基本理念を明文化し、職員に配布したり、ホーム内に掲示することで、職員が常に振り返り日々のサービスに活かせるような取り組みが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として交流できるように、地域の夏祭り・地藏盆・公民館の竣工式など地域の行事には積極的に参加している。地域の寿栄会（老人会）との交流が持てるようになっている。		地域の自治会・敬老会との交流が持てるような働きかけを今後も継続し、実現することが期待される。また、地域の行事・活動に参加すると共に、地域住民がホームを訪問し利用者と交流が持てるような体制の整備も望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審について、職員に説明は行ったが、管理者のみで自己評価をした。		職員全員が外部評価受審の意義を理解し、全員で自己評価することが望ましい。また、評価結果は、職員全員で検討し、改善計画を立て、サービスの質の向上に活かされる取り組みを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催に向けて、区長(寿区)に相談を行っている。		利用者・家族・地域住民・行政職員などが参加し、事業所の取り組み内容の報告・改善課題の話し合い・地域の理解と支援への働きかけを行う機会としての運営推進会議を、2ヶ月に1回定期的に開催することが望まれる。
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者・高年福祉課の担当者と交流をもっており、介護予防事業の依頼も含め、利用者の状況に応じた相談が出来る関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、生活状況・体調などについて報告し、家族の意見・意向を積極的に聞く機会を持っている。定期的には、1ヶ月に1回、各居室担当者が生活の状況・身体状況などを記入して一緒に送付している。身体状況に変化があった場合など必要に応じて、随時電話で連絡・報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪の頻度は様々であるが、来訪時には積極的に意見・要望などを聞く機会を設けている。出された希望・要望は、週1回のカフェイン時に職員間で情報を共有し改善へ向けて話し合いを行っている。重要事項説明書に事業所の相談苦情窓口と共に、市町村の相談苦情窓口も明記し外部に意見・苦情を表明できることを説明している。		家族会の結成・定期的なアンケート調査など、匿名的に意見・要望が表せる機会作りへの取り組みが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での職員の異動はない。食事会など、職員同士が交流できる機会を持ち、離職を最小限に抑える努力をしている。やむをえず職員が交代する場合、新しい職員への引継ぎを十分に行うなど、利用者へのダメージを防ぐように取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年度は法人内で介護福祉士国家試験対策の研修会を実施し、合格者を多く輩出し職員のスキルアップに成果を上げた。現在は、来年度に向けて、外部研修への参加を年1回、内部研修を2ヶ月に1回実施していけるよう年間計画を立て、検討中である。</p>		<p>現在検討中の事業所内研修を、定期的・計画的に実施すると共に、各職員が自らの立場・経験に応じて段階的に力をつけていけるような学びの機会を提供することが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの連絡会で、交流の機会がある。研修発表会・交流会に、管理者だけでなく職員も参加し、交流が持っているように取り組んでいる。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、自宅・施設に個別に訪問して面談を行ったり、見学してもらったりしている。馴染みながらサービス利用に至る必要性は理解してるが、利用者の状況により、馴染みの関係の構築する前に入居を急がれる場合が多い。</p>		<p>利用者が安心して納得しながらサービスを利用できるように、家族の協力を得て、馴染みの関係を構築しながら利用開始につなげる取り組みが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者一人ひとりの状況を把握し、その方の得意・不得意分野、生活歴に応じて、日々の生活の中で参加し活躍できる場面を提供し、心身の活性化を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時に、本人・家族から意向・希望を聞くと共に、入居後の日々のかかわりの中でさらなる意向・希望の把握に努めている。また、時間の経過による変化を見逃すことがないように、ミーティングなどで、意見交換・理解の共有を図っている。		サービス開始時のアセスメントシートに、生活歴・趣味・意向・希望が詳細に記入できる書式の検討が望まれる。また、その後の経過を、読んで共通認識できるような記録の作成も期待される。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス開始時に、本人・家族から意向・希望を聞き、入居約1ヵ月後に、本人・家族・計画作成責任者・居室担当職員などが意見を出し合い、本人の意向を反映した介護計画を作成している。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3~6ヶ月の定期的な見直しは実施している。ご利用者の状況の変化に伴っての見直しの必要性は理解しているが、十分な見直しには至っていない。</p>		<p>ご利用者の状況の変化が見られる場合には、速やかに現状に即した計画の見直しが望まれる。大きな状況の変化が認められないご利用者であっても介護計画で実施されるケアが現状とあっているか、また変化の兆しはないかモニタリングを行なうなどして予防的な関わりがもてるよう取り組むことを期待する。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>在宅酸素療法を行なっているご利用者も医師と常に情報交換を実施しながら馴染みの環境で生活が継続できるよう取り組んでいる。診療所の看護師の訪問を受けながら入院の回避や点滴などの医療処置を受けながらのホームでの生活の継続を図るだけでなく、入院に至った場合は、入院先と情報交換・連携をとりながら早期退院への取り組みを行なっている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご利用者・ご利用者家族が希望する医療機関への受診支援している。家族が医療機関を受診へ連れて行く場合は、生活状況・身体状況を口頭で報告している。近隣の歯科受診は、職員が通院同行している。皮膚科・眼科は適宜近隣に受診している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在まで2例看取りを行っている。ターミナルケアのマニュアルはないがその時々で一人一人の状況に応じて話し合いを行いケアに取り組んでいる。看取りを実施する場合は、家族とその都度話し合いながら、又医師への相談・協力を得ながら実施し、話合った内容は、ケース記録に残し朝の引継ぎ時、昼間のカンファレンスで申し合わせを行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者本人の希望や尊厳・自尊心を傷つけないように配慮しながら対応に注意しながら実施している。</p> <p>実際のケアの実践の中で利用者個々の尊厳・プライバシーを大切にしたい関わり・対応・ケアを検討している。プライバシー保護マニュアルはない。</p>		<p>個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止のためにもプライバシー保護のマニュアルを作成すると共に研修を行なうことでプライバシー保護の徹底を図る取り組みを期待する。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかに食事時間・おやつ時間・入浴時間は決めているが、本人の希望・ペースに合わせて生活できるように配慮している。午前中にラジオ体操を日課にしているが、参加は自由にしておりご利用者のペースやその日の体調で参加している。ご利用者の希望の表出や自己決定ができるよう個別プログラムの実施をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、ご利用者の希望を聞き職員が次の日の献立を立て買物に行きご利用者が出来る部分に参加してもらいながら調理をしている。誕生会にケーキをたべたり、お酒が飲みたいとの希望があれば対応し職員と食卓を囲んで食べることが楽しいものになるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴曜日のご利用者の希望に沿って行なっているが、ご利用者の安全性を考え入浴時間帯は希望に沿っていない。入浴時間帯も柔軟に対応ができるよう検討している。立位保持がしにくい方に関しては、職員で検討しながら最新の注意を払い対応して行きたいと安全な入浴を心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者個々の希望や趣味を把握し役割や楽しみごとの場面作りを行っている。車で10～15分程度のところに畑があり野菜作りを行っている。月1回介護予防事業で音楽会があり、歌の練習をし参加日々の生活の中に張りを作り出す取り組みを行なっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買物には、ご利用者の状況や天気により出かけている。ホームの前は、交通量が多い道路であるが、周辺を回るような散歩は実施している。ADLの低下により車椅子での外出も行っており屋内に閉じこもった状態にならないようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間施錠しているが、昼間は施錠せず自由な出入りができる。ご利用者が安心・安全のため施錠・センサーを希望されるケースもあり、ご利用者・職員で話し合いを持ち鍵をかけることの弊害を共に理解し施錠しないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中に避難訓練を実施している。地域への災害対策に対する理解を求めることが不十分であると感じており協力・連携体制の改善を検討中である。		いつ、どの時間帯に起きるかわからない災害に落ち着いて対応できるよう様々な時間帯を想定した避難誘導訓練の実施が望まれる。職員だけの避難誘導には限界がある為、地域との協力体制の整備への取り組みに期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体的な食事のバランスを考えながらメニューを考え偏りがないようにしている。体重は毎月測定し栄養状態の目安にしている。ご利用者個々の状況により水分量チェックをおこない、必要に応じて水分・排泄の量を測定・記録として残している。排便に関しては、確認できる方は、チェックしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の温かみのある家庭的な雰囲気を感じられる空間に花を生けたり、室内の飾りつけを行い季節感を出すように工夫している。リビングに畳のスペースがあり、くつろいだり、作業ができるように配慮されており、ご利用者が思い思いに安心して過ごすことが出来る。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より家族にご利用者が自宅で長年使い慣れた家具や小物などを持ち込んでもらえるよう働きかけている。個々の居室は、ご利用者の個性や自宅での生活感が感じられる。各居室の温度調節にも配慮し気持ちよく過ごせるようになっている。		

 は、重点項目。